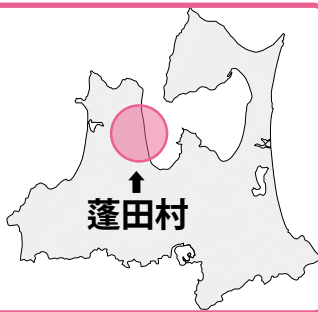


青森県の 市町村 情報



蓬田村ミニデータ

- 人口 2,568人
(男1,241人、女1,327人)
- 世帯数 1,127世帯
(令和5年2月1日現在)
- 特産品
桃太郎トマト、トマト加工品、ホタテ、トゲクリガニ、たまご、北のよもぎ茶、フライまんじゅう、焼き干し。

【概況】本州北端、津軽半島の陸奥湾沿いに位置し、東に陸奥湾の海、西に津軽半島の脊りょう中山山脈。そこから流れる4本の川の豊かな農業用水を利用し作りあげた美田が広がり、“上磯地方の蔵”と呼ばれている。陸奥湾はおだやかで養殖業に最適。

蓬田村発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。今回は『蓬田村トマト加工グループ』をご紹介します。代表の藤田かち子さんにお話を伺いました。

規格外トマトに付加価値をつけて
やりがいと収入をダブルで得る

「蓬田村トマト加工グループ」は、平成13年に蓬田村中沢地区でトマト栽培を手がける農家の女性4名で結成されました。設立時から現在まで代表を務める藤田かち子さんが、規格外トマトの利活用を考えたことがきっかけだったといえます。

同村の稲作農家の家に生まれたかち子さんは、同じく稲作農家だった夫と結婚。夫婦で休耕田を利用したトマト栽培に着手。「私たちも若かったし、生活のために力を入れていましたね」と、かち子さんは話します。かち子さんは当時、生活改善クラブに所属し、それまで村になかった農産物直売所の開設に尽力するなどの、農家の生活をよりよくするための活動を精力的に行っていました。

その中で、かち子さんは、「規格外で廃棄するしかないトマトがもったいない」という想いを解決しようと動きます。直売所ができたことで、加工品を作ることの思いついたのです。集まった冒頭の4



▲「蓬田村トマト加工グループ」代表の藤田かち子さん。

名で、平賀の加工所に約1時間半かけて何度も通い、自分たちの味を作っていました。そうしてできたのが、村の名物として認知されている「とまとけちやっぷ」をはじめとする商品です。

6次産業化の道のりは、決して容易なものではありませんでした。それでも20余年、かち子さんが走ってこられたのは、「蓬田のトマトを宣伝したい」、「農家の女性たちの収入を増やしたい」という強い想いが原動力となっていたそうです。

特産品として認知されたケチャップ 次代へつなげることが願い

「とまとけちやっぷ」の人気の秘密は、なんととっても味にあります。「原料のトマトそのものが美味しいからだと思えますよ」と、かち子さん。通常ケチャップには加工用のトマトを使うことが一般的ですが、かち子さんたちは普通の大玉のトマト、しかもブランドの桃太郎トマトを使います。「村の人達からも贈答用にも良いと言ってもらっています」。村のふるさと返礼品にもなっているなど特産品として認知されています。

そんな自慢の商品を広めるため、当初は販路開拓にもかけまわり、「よくやったと思う」とかち子さんは当時を振り返ります。今願うのは、この商品を次代に残したいということ。「リーダーに手を挙げてください新メンバーがいるので、しっかりと引き継いで次の時代を切り開いてもらえたら嬉しいですね」。責任を全うするかち子さんの姿が印象的でした。

私が男女共同参画を 担当しています

蓬田村役場健康福祉課
主査
青木 果歩 さん



蓬田村では、平成27年に「第2次蓬田村男女共同参画推進計画」を策定しました。「男女が互いに人権を尊重する社会づくり」、「男女共同参画社会形成の意識づくり」、「男女共同参画ができる社会づくり」の3つの基本目標を柱に、男女とも個人としての尊厳が重んじられ、お互いに支え合いながら社会に参画し、生き生きとした暮らしを実現することができるよう村づくりを目指しています。

また蓬田村は、青森市、平内町、外ヶ浜町、今別町とともに東青地域の男女共同参画地域ネットワークに参画しており、今年度は事務局を担当しています。また、村の誘致企業である「蓬田紳装」が、今年度「女性活躍推進行動計画」を策定するのに合わせ「男女共同参画における女性活躍推進」について講演会を実施する予定でした。残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となってしまいましたが、別の機会に実現できるように、取り組みを続けていきたいと考えています。

「蓬田村トマト加工グループ」については、商品を通じて蓬田村を知ってもらえるきっかけのひとつとなっており、とても嬉しく思っています。個人的にもよく購入するいちファンですので、これからも頑張っていただけのように、サポートできるところはしていきたいと思っています。

(取材：井藤 雪香)